

酒造好適米「ひだほまれ」の品質向上対策

研究の背景

「ひだほまれ」は中山間農業研究所が育成した酒造好適米であり、極大粒で心白の発現がよいことから、県内の酒造メーカーで年間約800tが利用されている。しかしながら、心白が大きいことから搗精時に割れやすく、精米歩合60%程度で利用されることが多く、大吟醸酒には不向きとされている。このため、心白の発現と千粒重の確保、搗精時の破米発生を低減する栽培条件について検討を行った。

耕種概要

作期	試験区	窒素施用量			穂肥種類
		基肥	穂肥1	穂肥2	
普通期	5-2-1.5	5.0	2.0	1.5	マップ484号 *慣行
	5-2-0.0	5.0	2.0	0.0	マップ484号
	5-0-1.5	5.0	0.0	1.5	マップ484号
	5-3.5-セラコート	5.0	3.5	0.0	セラコートR454
	5-3.5-LP	5.0	3.5	0.0	LP30
晩植	5-2-1.5	5.0	2.0	1.5	マップ484号 *慣行
	5-3.5-LP	5.0	3.5	0.0	LP30

基肥: 塩化燐安1号(14-14-14)

穂肥: マップ484号(14-8-14)、穂肥1: 出穂18日前、穂肥2: 出穂11日前

穂肥: セラコートR454(14-5-14)、施肥: 出穂18日前

穂肥: LP30(42-0-0)、施肥: 出穂18日前

研究の内容とこれまでの成果

1. 心白発現率及び心白率は晩植による出穂期の後退や登熟期間の低温により低下する。

2. 玄米の千粒重は緩効性肥料の施用や穂肥の2回施用により、玄米の粒厚分布が上昇することで向上する。

3. 搗精時の破米率は心白の発現程度の差よりも、年度による差が大きい。

「慣行の施肥体系(5-2-1.5)」は千粒重の確保と搗精時の破米率の低減に効果を上げている。

心白発現率 = 心白発現粒数 / 全粒数 × 100
 心白率 = (5 × 大粒数) + (4 × 中粒数) + (2 × 小粒数) / (5 × 全粒数) × 100

* 大粒・中粒・小粒は心白の大きさによって区分

表1. 心白発現率と心白率

作期	試験区	H27		H28	
		心白発現率 (g)	心白率 (%)	心白発現率 (%)	心白率 (%)
普通期	5-2-1.5	35.9	28.1	41.5	33.0
	5-0-1.5	40.9	32.2	36.3	27.7
	5-2-0	33.1	25.7	43.5	35.6
	5-3.5-セラコート	35.9	28.6	45.7	36.5
	5-3.5-LP	34.8	27.0	43.4	34.6
晩植	5-2-1.5	22.4	17.4	32.4	25.2
	5-3.5-LP	33.0	26.4	23.0	17.9

表2. 千粒重と破米率

作期	試験区	H27		H28	
		千粒重 (g)	破米率 (%)	千粒重 (g)	破米率 (%)
普通期	5-2-1.5	28.4	7.8	27.8	13.4
	5-0-1.5	28.5	10.3	27.3	13.9
	5-2-0	27.8	7.7	27.2	19.6
	5-3.5-セラコート	28.8	10.1	28.1	13.1
	5-3.5-LP	28.5	8.3	27.9	13.8
晩植	5-2-1.5	27.9	7.4	27.0	13.6
	5-3.5-LP	28.4	7.9	26.5	12.3

岐阜県中山間農業研究所